



# 2019年3月期 第3四半期決算説明会

2019年1月25日  
株式会社エンプラス

# 目次

- 2019年3月期 経営基本方針
- 2019年3月期 第3四半期損益実績
- 2019年3月期 第3四半期決算総括
- 2019年3月期 通期計画(連結)
- 各事業の動向と事業戦略

**Organic Growth**  
自律成長の推進

# ▶▶▶ 経営基本方針の実現に向けて

## 重点推進事項

自律成長

新製品開発(技術)  
新規顧客開拓(営業)  
新市場創出(事業トップ)

Operational  
Excellence

【間接】事業成長を支える経営基盤の強化  
【各BU】QCDSS  
(品質、コスト、納期、サービス、スピード)

Innovation

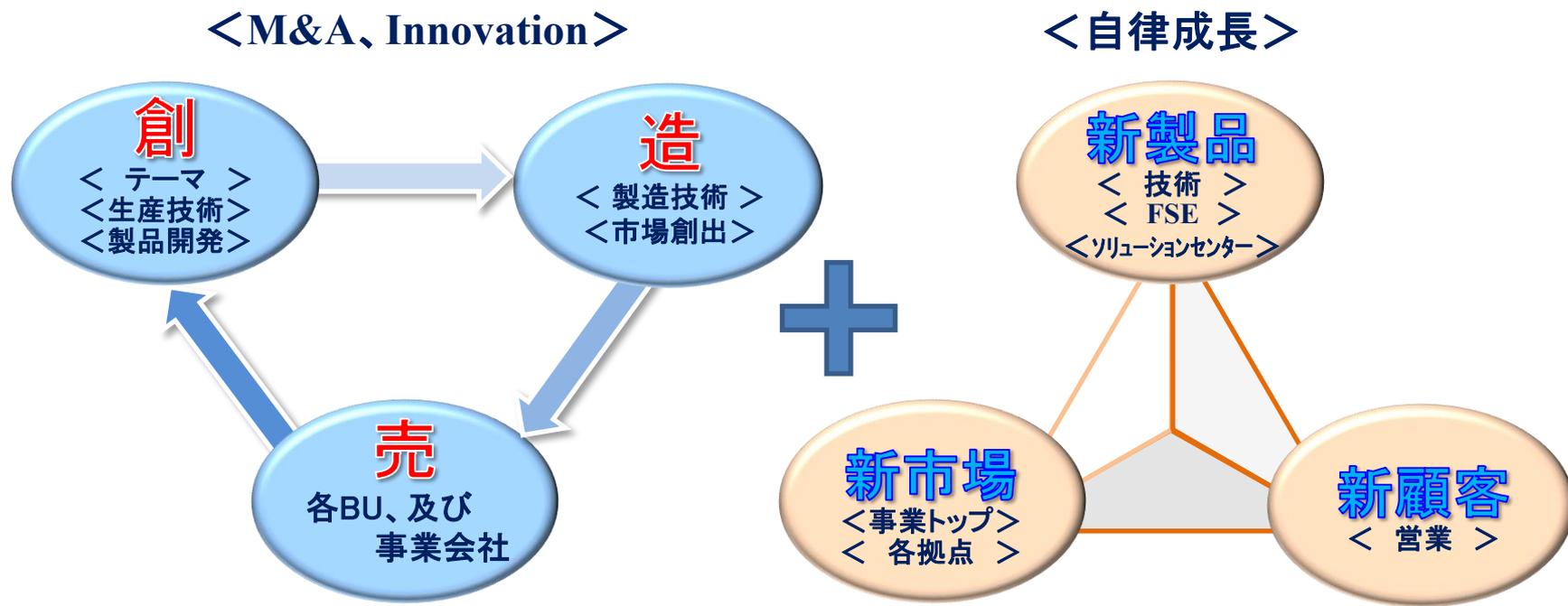
顧客価値創出による売上拡大

M&A

PMIの積極的展開

# 目指す方向性

## 事業運営



創-造-売を成長市場で  
スピーディーに回し続ける

# 2019年3月期 第3四半期累計損益実績(連結)

(単位: 億円)

	2019/3期 3Q累計実績	2018/3期 3Q累計実績	増減	2019/3期 通期計画
売上高	237.8	256.7	△7.4%	340.0
売上原価率	57.1%	52.8%	4.3pt	55.5%
営業利益	15.4	37.7	△59.1%	33.0
経常利益	18.4	36.0	△48.8%	33.0
親会社株主に帰属する 四半期純利益	10.9	25.4	△56.9%	23.0
包括利益	11.1	31.3	△64.6%	—
1株当たり 四半期純利益	85.67円	198.85円	△113.18円	179.76円

# 2019年3月期 セグメント別第3四半期累計実績(連結)

(単位: 億円)

	2019/3期 3Q累計実績	2018/3期 3Q累計実績	増減	2019/3期 通期計画
<b>エンプラ事業</b>	<b>110.2</b>	<b>99.9</b>	<b>10.3%</b>	<b>150.0</b>
売上原価率	<b>64.1%</b>	<b>63.0%</b>	<b>1.1pt</b>	-
営業利益	<b>1.4</b>	<b>0.6</b>	<b>134.2%</b>	-
<b>半導体機器事業</b>	<b>88.3</b>	<b>93.5</b>	<b>△5.6%</b>	<b>130.0</b>
売上原価率	<b>55.3%</b>	<b>52.5%</b>	<b>2.8pt</b>	-
営業利益	<b>6.5</b>	<b>16.2</b>	<b>△59.6%</b>	-
<b>オプト事業</b>	<b>39.2</b>	<b>63.2</b>	<b>△37.9%</b>	<b>60.0</b>
売上原価率	<b>41.5%</b>	<b>37.1%</b>	<b>4.4pt</b>	-
営業利益	<b>7.3</b>	<b>20.8</b>	<b>△64.6%</b>	-
<b>売上合計</b>	<b>237.8</b>	<b>256.7</b>	<b>△7.4%</b>	<b>340.0</b>
売上原価率	<b>57.1%</b>	<b>52.8%</b>	<b>4.3pt</b>	<b>55.5%</b>
営業利益	<b>15.4</b>	<b>37.7</b>	<b>△59.1%</b>	<b>33.0</b>

# ▶▶▶ 連結四半期損益実績推移(連結)

(単位: 億円)

	2019/3期			2018/3期	
	3Q	2Q	1Q	4Q	3Q
売上高	75.7	81.8	80.1	76.1	85.3
売上原価率	59.2%	57.1%	55.2%	56.7%	53.1%
営業利益	1.9	6.3	7.1	5.9	11.3
経常利益	1.4	7.8	9.1	2.4	10.5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	0.6	5.2	5.0	△0.0	6.7
1株当たり 四半期純利益	5.18円	40.96円	39.53円	△0.60円	52.86円



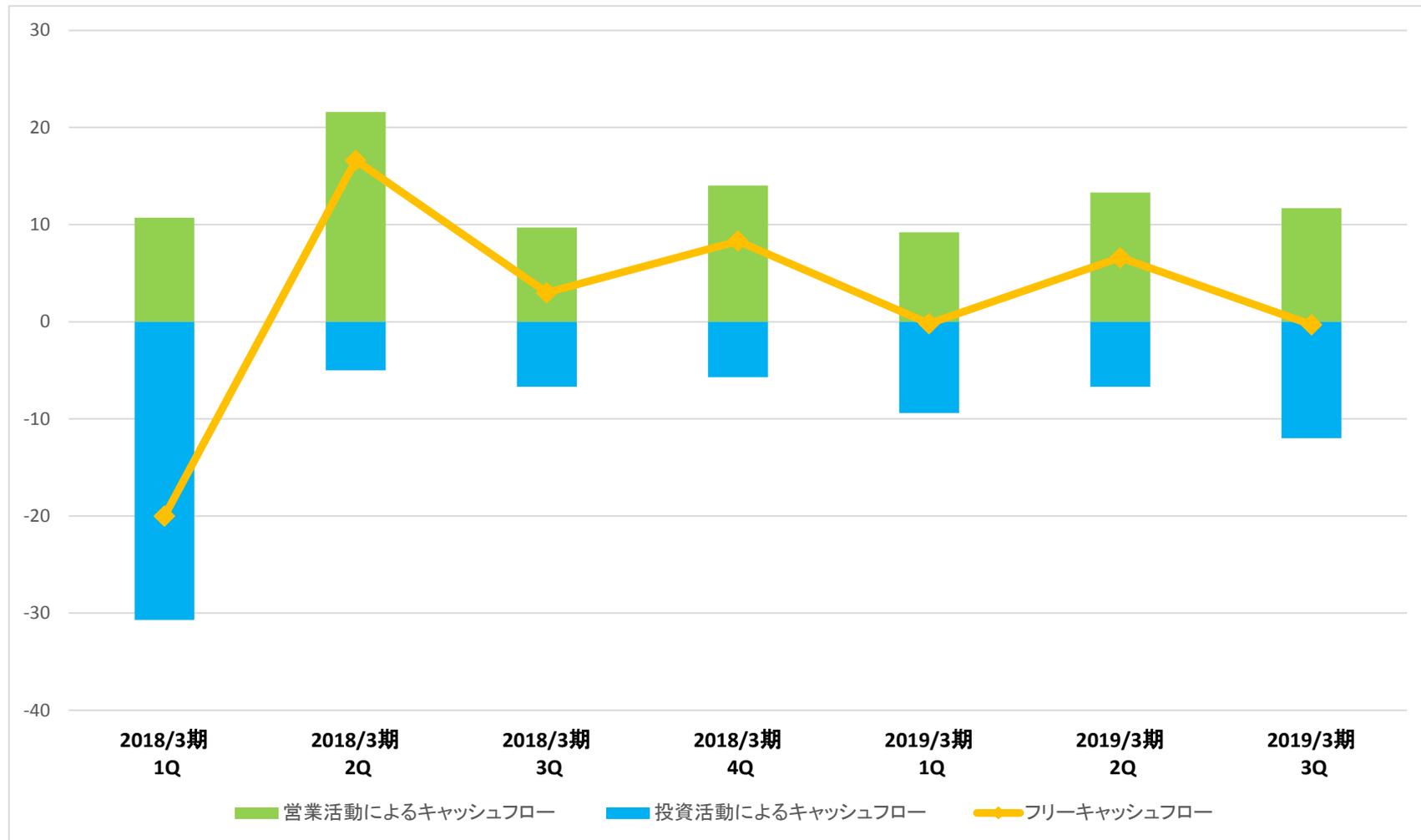
# セグメント別四半期損益実績推移(連結)

(単位: 億円)

	2019/3期			2018/3期	
	3Q	2Q	1Q	4Q	3Q
<b>エンプラ事業</b>	<b>35.7</b>	<b>38.7</b>	<b>35.6</b>	<b>35.3</b>	<b>33.9</b>
売上原価率	66.4%	64.0%	62.1%	63.3%	64.6%
営業利益	<b>△0.5</b>	<b>1.2</b>	<b>0.8</b>	<b>0.9</b>	<b>△0.9</b>
<b>半導体機器事業</b>	<b>28.4</b>	<b>28.6</b>	<b>31.2</b>	<b>26.1</b>	<b>31.7</b>
売上原価率	56.4%	57.0%	52.7%	55.6%	51.5%
営業利益	<b>1.2</b>	<b>1.3</b>	<b>4.0</b>	<b>2.8</b>	<b>5.9</b>
<b>オプト事業</b>	<b>11.5</b>	<b>14.4</b>	<b>13.2</b>	<b>14.5</b>	<b>19.6</b>
売上原価率	44.0%	38.9%	42.3%	42.8%	36.1%
営業利益	<b>1.2</b>	<b>3.8</b>	<b>2.2</b>	<b>2.1</b>	<b>6.3</b>
<b>売上合計</b>	<b>75.7</b>	<b>81.8</b>	<b>80.1</b>	<b>76.1</b>	<b>85.3</b>
売上原価率	59.2%	57.1%	55.2%	56.7%	53.1%
営業利益	<b>1.9</b>	<b>6.3</b>	<b>7.1</b>	<b>5.9</b>	<b>11.3</b>

# ▶▶▶ キャッシュフロー推移

(単位: 億円)



# ▶▶▶ 決算総括<前3Q累計比>

## ◆ 期中平均レート (US\$)

2019/3期 3Q累計	2018/3期 3Q累計	差異
110.78円	111.78円	△1.00円

12月末レート  
111.02円

3月末レート  
106.25円

## ◆ 販売管理費

(単位: 億円)

2019/3期 3Q累計	2018/3期 3Q累計	差異
86.5	83.5	3.0

- のれん償却額 2.4億円 (前3Q累計 1.2億円)
- 無形固定資産償却 0.9億円

## ◆ 営業外損益

(単位: 億円)

2019/3期 3Q累計	2018/3期 3Q累計	差異
3.0	△1.6	4.6

- 為替差益 3.2億円 (前3Q累計 為替差損1.1億円)

# ▶▶ 2019年3月期 通期計画(連結)

# 2019年3月期 連結損益通期計画(修正なし)

(単位: 億円)

	2019/3期 通 期	2019/3期 3Q累計実績
売 上 高	340.0	237.8
売 上 原 価 率	55.5%	57.1%
営 業 利 益	33.0	15.4
経 常 利 益	33.0	18.4
親会社株主に帰属する 当期純利益	23.0	10.9
1株当り当期純利益	179.76円	85.67円

# 2019年3月期 セグメント別売上計画

(単位: 億円)

	2019/3期	2019/3期
	通期計画	3Q累計実績
エンプラ事業	150.0	110.2
半導体機器事業	130.0	88.3
オプト事業	60.0	39.2

# ▶▶▶ 2019年3月期 計画(ご参考)

(単位: 億円)

	2019/3期		2018/3期
	通期計画	3Q累計実績	通期実績
設備投資	18.0	13.3	20.6
減価償却	20.0	15.3	20.2
研究開発	12.0	9.3	11.9

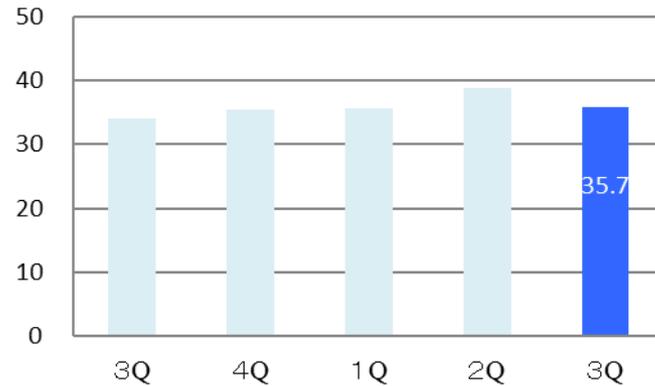
※設備投資以外は2018年4月20日の計画から変更してありません。

## ▶▶ 各事業の動向と事業戦略

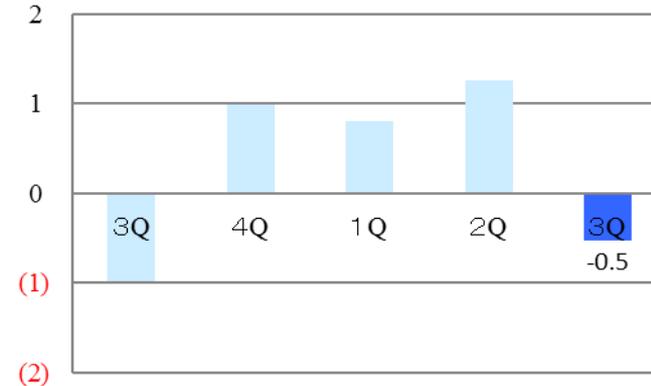
# エンプラ事業

(単位: 億円)

## 売上高



## 営業利益



- 新規顧客・新製品・新市場開拓による自律成長
- ソリューションビジネスの推進
- 顧客ニーズに対するスピード対応力強化
- バイオ関連事業の強化継続

2019年3月期

売上計画: 150億円

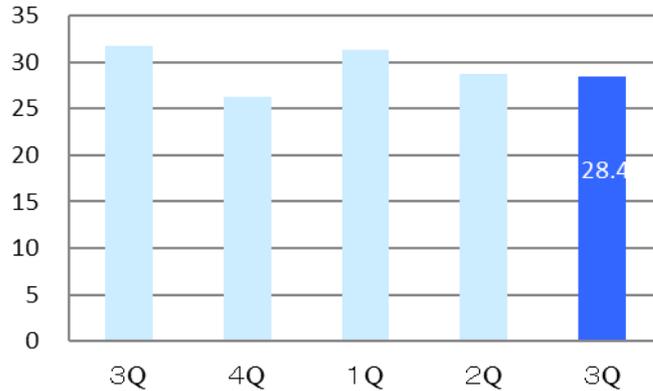
(3Q累計売上実績: 110.2億円)



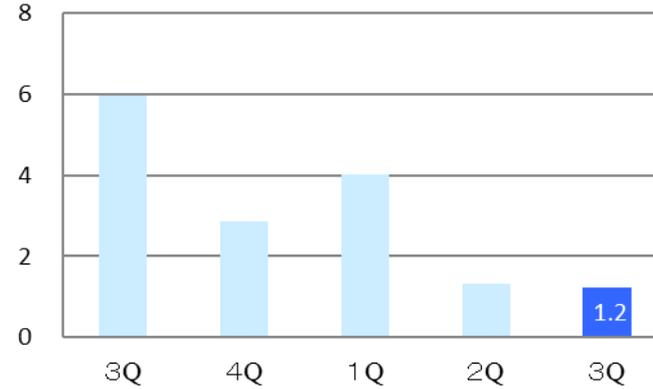
# 半導体機器事業

(単位: 億円)

## 売上高



## 営業利益

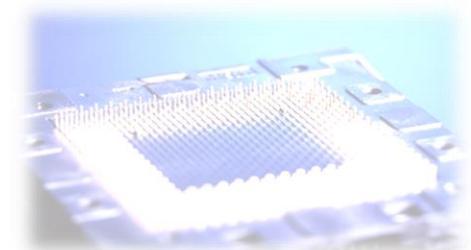


- 新規顧客開拓の推進
- 新ソリューション開発の推進
- 顧客満足度の向上

2019年3月期

売上計画: 130億円

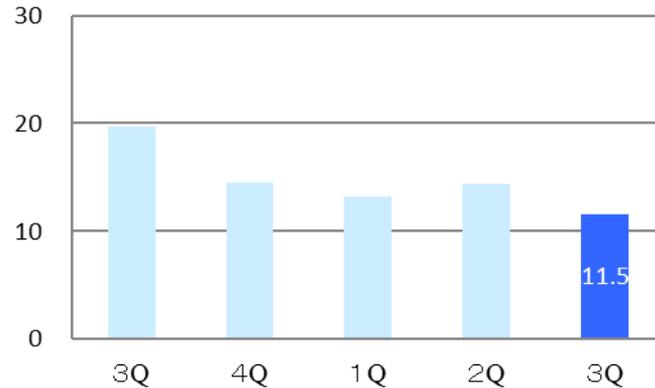
(3Q累計売上実績: 88.3億円)



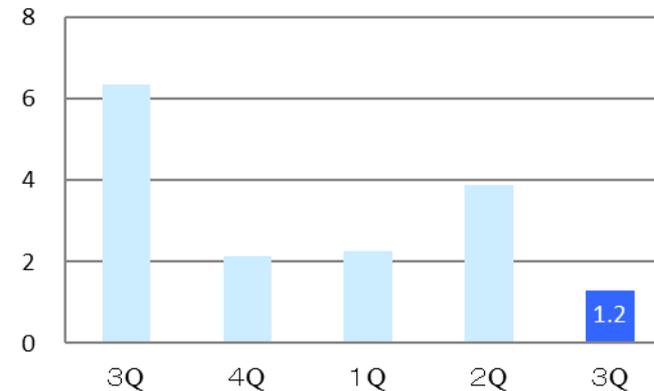
# ▶▶▶ オプト事業

(単位: 億円)

## 売上高



## 営業利益



- ▶ 新規顧客の開拓と新製品の開発、上市
- ▶ 生産最適化戦略の推進
- ▶ 5Gなどの次世代高速通信分野での新製品開発

2019年3月期

売上計画: 60億円

(3Q累計売上実績: 39.2億円)





# 株式会社エンプラス 決算説明会

<http://www.enplas.co.jp/>

(東証1部 6961)

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、さまざまな要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。